

# 列状間伐の導入定着を目指した取組

地域課題の解決に向けた取組

檜山森林管理署

道南地域における課題のひとつとして、「民有林の間伐がなかなか進まない」ことがあげられます。

この背景としては、民有林は個々の林分が0.5ha以下の小面積林分が多いことから、①集約化が進まず間伐コストが高い、②民有林の搬出間伐を実行する事業者が少ない、③路網の未整備な林分が多い、などの理由があげられます。



厚沢部町私有林のモデル林

檜山森林管理署では、この課題解決のため、列状間伐（搬出間伐）導入のため

の技術支援を行ってまいりました。

これまで、道庁の振興局や各町等関係機関と連携し、森林所有者に対し、列状間伐のモデル林の設置について協力を呼びかけた結果、3町の私有林等にモデル林が設置されました。



国有林での間伐材搬出状況

また、各現場での現地検討会も重ねています。搬出間伐の導入に向けて、関係機関や林業事業者等に、国有林の間伐現場を見ていただき、森林作業道を整備することで搬出間伐が可

能になった事例を紹介しました。

また、低コスト化に向けては森林作業道等の路網の配置が重要であり、集材距離が長くても生産量がある程度見込まれば、事業として成り立つことを説明しました。

このほか、振興局の森林室主催の現地検討会では、民有林の間伐現場において、高性能林業機械を使用した列状間伐を見学しました。

現地は、奥地の森林が多い国有林とは違い、国道からも比較的近く、地理的条件が良い林分でした。

ハーベスタによる伐倒・造材を間近で見学し、効率的な作業システムによる作業とはどんなものか、また、すでに導入している森林所有者もいることを理解していただきました。

また、道南の民有林として一般的な小面積の林分であり、列状間伐導入に向けて、より具体性の高い検討ができました。



ハーベスタによる伐倒・造材現場

このような現地検討会に参加した事業者からは「（列状間伐は）民有林であれば、トラック数台分の生産量があれば可能。」との意見も出され、各町の担当者や森林組合等の方々にも認識を新たにされたことと思います。

ある町有林での例ですが、列状間伐モデル林の設置を検討しましたが、高齢の林分が多く、結局モデル林の設置には至りませんでした。しかしながら、モデル林の検討を行うことにより、もっと早期に列状間伐すべきだったと一同が納得したことは大きな成果でした。

道南地区での列状間伐（搬出間伐）は、なかなか導入が進んでいませんが、実際の現場において、林分の調査方法や、森林作業道の作設方法等の検討会を更に積み重ねていき、低コストで生産性が高い「列状（搬出）間伐」が地域に定着していくよう、技術支援を継続していきたいと考えています。